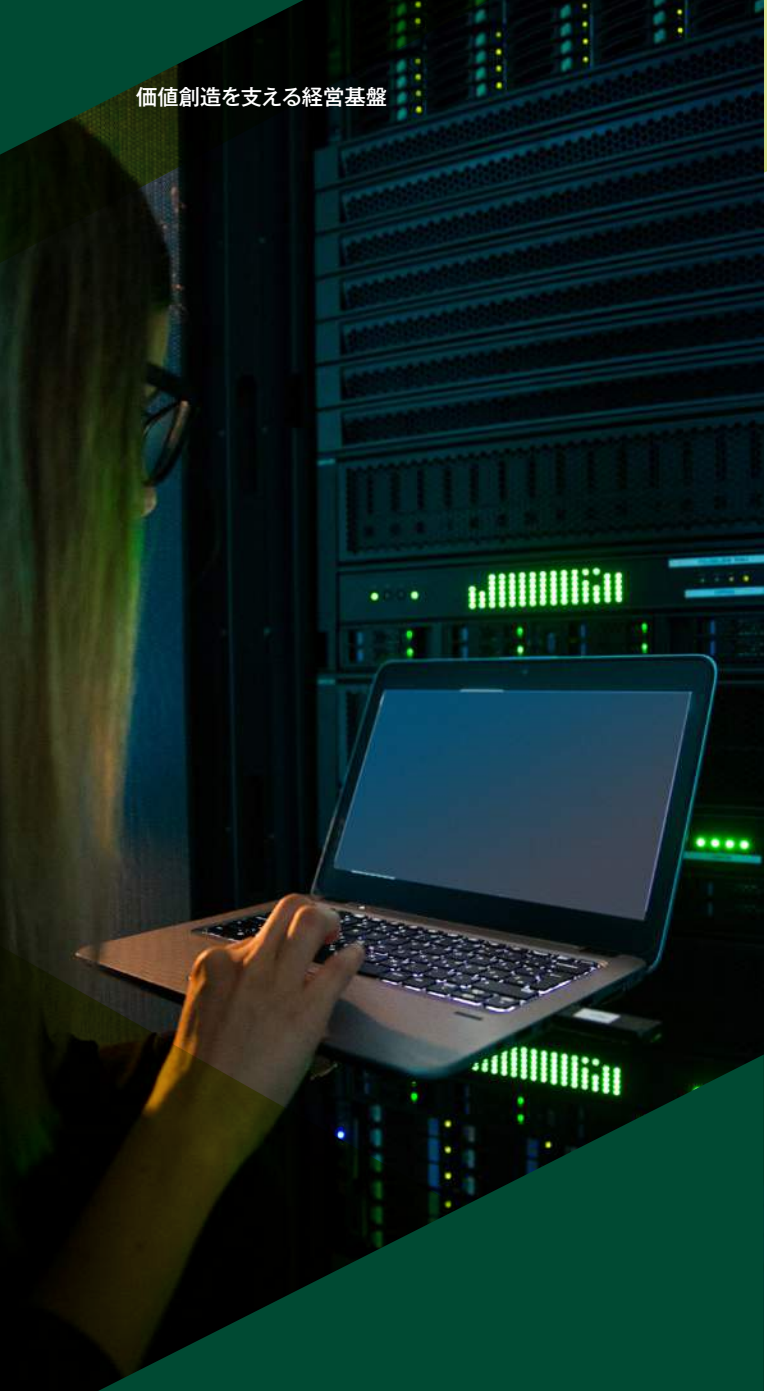


IT戦略

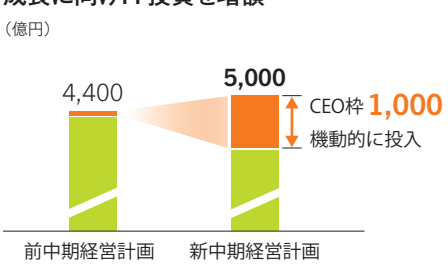
基本的な考え方

成熟期を迎えた国内と今なお成長を続ける海外、デジタル技術活用機会の拡大とセキュリティ対応の強化、DI・DX推進の必要性となお過半を占める既存IT領域の重要性、システムの所有と利用。ハイブリッド化が進む環境変化の中、経営・業務を支える「両利き」でのIT戦略を推進します。

IT投資戦略

将来の成長に向け、新中期経営計画のIT投資額は前中期経営計画の4,400億円から5,000億円に増額しました。効率的な運営により既存IT領域への投資を適切にコントロールすることで、デジタライゼーション等の戦略投資を大きく増やしていきます。具体的には、グループCEOが「将来の成長が期待できる分野」と判断したものに機動的に投入できるCEO枠を1,000億円確保し、デジタル化の推進や経営基盤の強化、事業戦略の実現を牽引していきます。

成長に向けIT投資を増額



デジタル推進

デジタル化を通じたビジネスモデル改革とお客さまへの新たな価値提供に向け、「デジタルソリューション本部」を設置しました。また、同部門内にデジタル予算の資源配分やデジタライゼーションの戦略立案・推進、新規事業開発を担う「デジタル戦略部」および、大企業との事業共創やデジタルソリューション企画・推進を担う「法人デジタルソリューション部」を新設しました。

将来のビジネスを支える基幹系インフラの更改・再構築

中長期のビジネス環境、お客さまのニーズ変化等に対応すべく、柔軟性（Flexibility）、持続性（Sustainability）、効率性（Efficiency）の3点を軸とした、10年後を展望した基幹系インフラの構築を目指していきます。

1	**柔軟性** Flexibility	柔軟な機能の拡張・変更を可能とすべく、外部・内部のシステムとの接続基盤を整備
2	**持続性** Sustainability	複雑な構成のシステム構築や過剰なカスタマイズを回避
3	**効率性** Efficiency	システム構成の効率化やグループ内でのシステム共通化等を検討

デジタル社会の持続的成長を支える人材育成

SMBCグループのデジタル化を加速し、お客さまや社会へ貢献していくためには、IT専門部署だけでなく全従業員がデジタルマインドやIT基礎知識を身に付ける必要があります。SMBCグループでは、グループの中核IT会社である日本総合研究所にITやデジタル化推進に関する研修組織「デジタルユニバーシティ」を設置し、全従業員を対象としたデジタルITリテラシー研修や、実務に活かせるIT利活用研修を提供しています。

また、専門性を持った人材の育成にも取り組んでおり、グループ各社の業務をベースとした研修や、プロジェクトの実例から得られたノウハウを活用したカリキュラム、最新技術に関するワークショップ等、独自の研修を行っています。

サイバーセキュリティ

深刻化・巧妙化の一途を辿るサイバー攻撃のリスクに対応するため、SMBCグループでは、トップリスクのひとつにサイバーリスクを掲げ、「サイバーセキュリティ経営宣言」を策定し、セキュリティ対策を強化しています。

経営主導の態勢強化のため、グループCIO・CROの下に、システムセキュリティ統括部長として専門的な責任者「CISO」を配置する体制にしています。CISOの役割・責任を明確化するとともに、「CSIRT」「SOC」を設置してグループ内外から集まる脅威情報や観測事象を分析し、推進中のセキュリティ対策の状況と合わせて、定期的に取締役会および経営会議の場で議論することで、継続的なレベルアップに努めています。

CSIRTは、サイバーセキュリティ専担組織を有するシステムセキュリティ統括部が中心となって構成する組織で、サイバーインシデントの発生に備え、国やFS-ISAC[*1]、金融ISAC[*2]等の外部機関とも連携し、攻撃者の手口や脆弱性情報等を共有しています。

SOCは、日本総合研究所を中心に組織しており、グループ各社監視体制の一元化推進、グローバルベースでの24時間365日監視体制構築等、高まるサイバー攻撃へのリスクに備えるべく、引き続きセキュリティ監視の強化に努めています。

*1 Financial Services Information Sharing and Analysis Center（米国における金融業界のセキュリティ連携を担う組織）

*2 一般社団法人金融ISAC（日本版ISAC）

SMBCグループのサイバーセキュリティ経営体制